

全国大学書写書道教育学会

第40回記念(信州)大会 公開ラウンドテーブル

手書き文字と書写書道教育の展望

主催：全国大学書写書道教育学会

後援：長野県教育委員会，長野市教育委員会，

長野県書写書道教育研究会，長野県高等学校書道教育研究会

日時：令和7(2025)年9月13日(土) 14:30～16:30

会場：信州大学教育学部 図書館2階大講義室

参加費：無料(一般参加も可)

GIGA スクール構想や ICT 活用の進展, AI の導入など, 学校教育を取り巻く環境の変化が加速度を増す現在, 広く手書きの教育を対象とする書写書道教育には何が求められ, 今後何が求められていくのか。これからの10年の指針である新学習指導要領の検討がスタートするこのタイミングに, 手書き文字と学校教育における書写書道教育の展望をラウンドテーブルの形で多くの方々と議論したいと思います。

*全体進行 青山浩之(横浜国立大学)

○ラウンドテーブルの方向性 【14:30～15:00】

〔基調提案〕 押木秀樹(上越教育大学)〔主にテーブル1について〕

青山浩之(横浜国立大学)〔主にテーブル2について〕

松本仁志(広島大学) 〔主にテーブル3について〕

○ラウンドテーブル 【15:05～16:00】

テーブル1 「運筆指導～身体性と動作性～」

司会：清水文博(山梨大学), 本田容子(鎌倉女子大学)

今回のラウンドテーブルでの「運筆」は, 毛筆・硬筆両方の意味で, 「点画の書き方」や「点画のつながり」などが該当します。近年, 子供たちが手書きしている様子に対し未熟さが指摘され, 平成29年学習指導要領における国語科書写では, 字形などとともに「運筆」指導が重要視されています。小学校低学年における水書指導もその一つです。またタブレット PC などの普及で, 教室での手書きの減少も指摘されます。テーブル1では, 「運筆指導」について, 身体性や動作性といった観点を踏まえつつ, 自由に議論します。

テーブル2 「文字文化～文字の文化と文字を書く文化～」

司会：平田光彦(武庫川女子大学), 柳田さやか(島根大学)

平成29年学習指導要領では, 広く「文字文化」という枠組みの中で書写書道教育の営みを捉え直すことが, 改訂の要点の一つとなりました。テーブル2では, 「文字文化」の二面性を理解し, こうした概念が重視される背景や理由などをもとに, 書写書道教育を通して「文字文化」の教育をどう創造していけばよいかを自由に議論します。

テーブル3 「育成すべき資質・能力～これからの”書くこと”のために～」

司会：杉山勇人(鎌倉女子大学短期大学部), 草津祐介(東京学芸大学)

昨今の AI 導入に伴う社会の変化や学校教育を取り巻く環境の変化は, 書写書道教育のこれまでのあり方を根本から問い直す必要性を投げかけています。テーブル3では, こうした時代に, 書写書道教育において「育成すべき資質・能力」とは何か, これからの“書くこと”を踏まえ, 書写書道教育が向かうべき方向性について, 自由に議論します。

○ラウンドテーブルのまとめ 【16:05～16:30】